

## ~~~~~角層解析について~~~~~

テープストリップした角層を様々な手法により解析することで表皮のターンオーバーの状態、角層細胞の成熟度、また、表皮の酸化ストレスや炎症の状態が評価でき、非侵襲的に皮膚の内部の状態を類推することができます。角層解析の結果は、数値データだけでなく、各種染色画像をビジュアルデータとしても活用することができます。

---

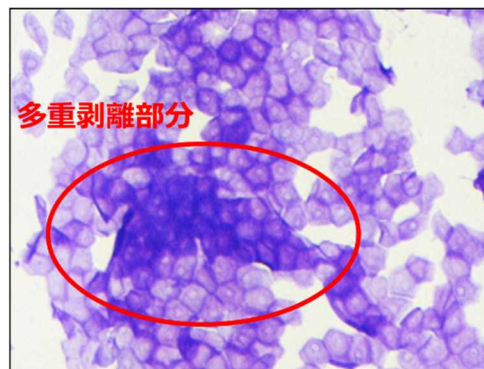
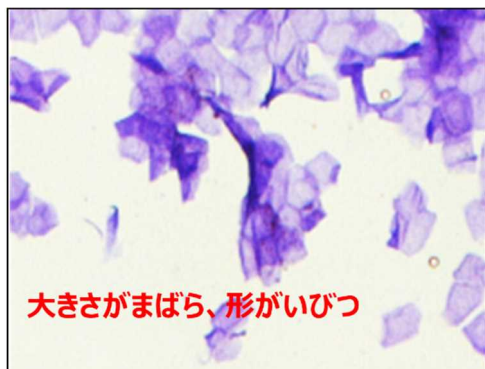
### ○BG 染色（細胞面積・多重剥離度・真円度解析）

・細胞面積…ターンオーバー速度と細胞面積が相関していることから、細胞面積を測定することで表皮のターンオーバーの状態を評価することが可能です。

・多重剥離度…角化不全が起こると、通常なら一層ずつ剥離する細胞が多重で剥離するため、多重剥離度を測定することで、角化不全を評価することが可能です。

・真円度…角化不全が起こると、通常なら真円度の高い六角形あるいは五角形をしている細胞の形状が乱れます。細胞形状の真円度を評価することで、角化不全を評価することが可能です。

### <荒れた肌の角層 BG 染色画像例>

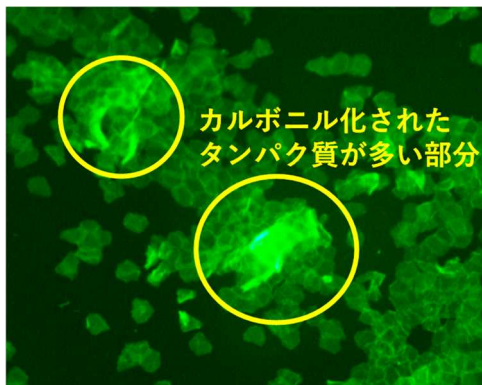


---

○カルボニル化タンパク染色（酸化ストレス評価）

角層細胞のカルボニル化タンパクを染色することで、角層細胞の酸化度を評価することが可能です。

<カルボニル化タンパク染色画像例>



---

○フォンタナマッソン染色（細胞内メラニン可視化）

角層細胞中のメラニンを染色して可視化することが可能です。

<フォンタナマッソン染色画像例>

